

## 令和 6 年度秋期 情報処理安全確保支援士試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2024,12,26

10月13日(日)に行われた令和6年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、応用情報技術者試験の分析コメントをお知らせします。

### ■情報処理安全確保支援士試験(SC)

[令和6年度秋期 情報処理安全確保支援士試験 統計情報]

応募者	24,032人
受験者	17,324人
合格者	2,615人
合格率	15.1%

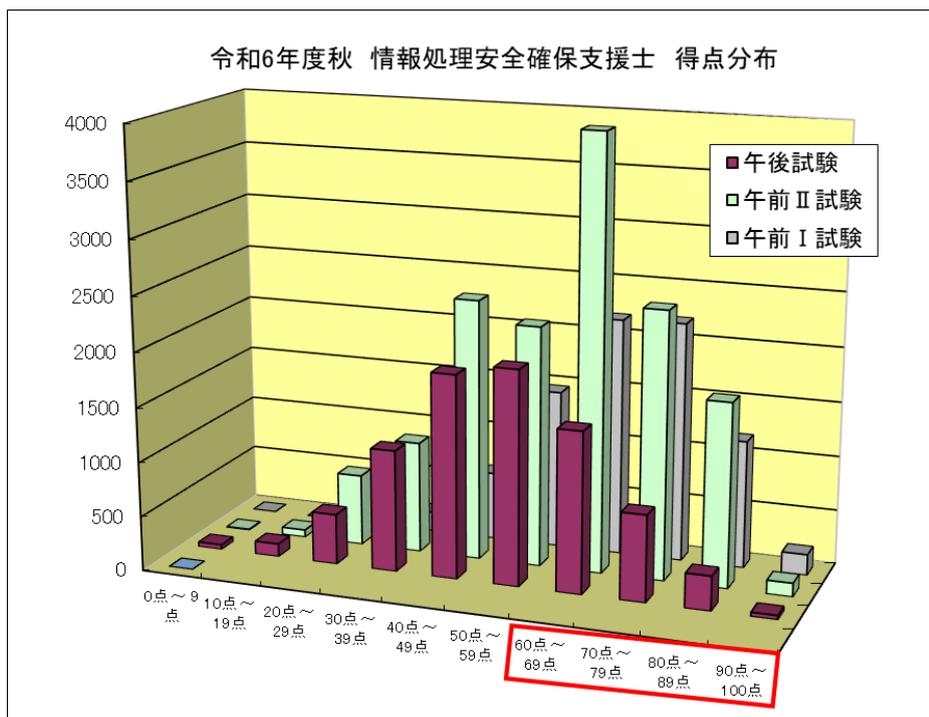
平成29年春期から始まった情報処理安全確保支援士試験(旧情報セキュリティスペシャリスト試験)は、前々回(令和5年度秋期)から午後Ⅰと午後Ⅱ試験が一つの午後試験として統合され実施されました。今回の合格率は15.1%で前回の18.3%から約3%下がりましたが、平成29年春期試験以降、最も低い結果でした。今回は午前Ⅰ試験が易しく通過率が高かったのですが、午前Ⅱ試験がやや難しく60点以上取れた人の割合がかなり低かったことの影響が出た可能性があります。

発表された得点分布の分析とグラフを示します。

[令和6年度秋期 情報処理安全確保支援士試験 得点分布とグラフ]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後試験	合格者
0点～9点	0	7	42	
10点～19点	3	67	119	
20点～29点	22	655	463	
30点～39点	180	1,024	1,117	
40点～49点	625	2,389	1,862	
50点～59点	1,457	2,200	1,961	
60点～69点	2,177	3,946	1,472	
70点～79点	2,192	2,443	791	
80点～89点	1,172	1,683	315	
90点～100点	191	124	37	
計	8,019	14,538	8,179	2,615
対前試験比率		181.3%	56.3%	32.0%
午前Ⅰ免除者(概数)	9,305	53.7%		

合格者数	2,615	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	5,732	71.5%	3,117
午前Ⅱ60点以上合計	8,196	56.4%	5,581
午後60点以上合計	2,615	32.0%	0



午前Ⅰ試験免除対象の人は増える傾向がありますが、得点分布の結果を分析してみると、今回情報処理安全確保支援士の午前Ⅰ試験の免除者は概算で 9,305 人 (53.7%) いて、受験者の半数を超える人が午前Ⅱからの受験となっています。この午前Ⅰ試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 5,732 人 (受験者の 71.5%) で、前回の 48.2% と比べて非常に増えています。これまでは約半数の人が 60 点以上でしたのでかなりの増加です。なお、50 点～59 点というあと一歩の人が 1,457 人 (18.2%) と 2 割弱いて、出題された問題の難易度で大きく変わることから、出題範囲が非常に広い午前Ⅰ試験対策は早めに計画を立て、確実に進める必要があります。

午前Ⅱ試験で基準点以上の方は 8,196 人 (受験者の 56.4%) で、前回の 75.2% から 20% 近くも減っています。今回やや難しい問題が多かったことが理由と思われる。

午後試験は、以前の午後Ⅰと午後Ⅱ試験が一つに統合されてから 3 回目の実施になりますが、基準点 (60 点) 以上取れた人は合格者数である 2,615 人 (採点数の 32.0%) でした。今回の午後試験の採点者数は 8,179 人 (前回 8,014 人) で、以前の令和 5 年度春期の旧午後Ⅱ試験の採点者数 4,161 人からかなり増えているのですが、合格率は低い結果でした。午後の試験で出題された内容もバランスよく出題されていましたが、字数指定のない記述式の設問が増え、うまく解答できなかった人が多かった可能性があります。

## ■ 令和 6 年度秋期 情報処理安全確保支援士試験の出題内容について

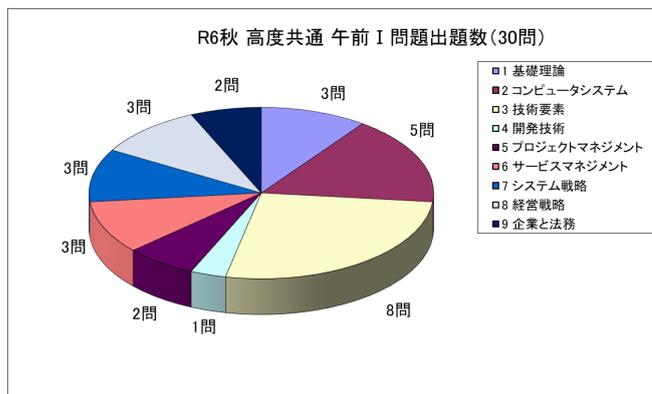
(午前Ⅰ試験 (高度試験の共通知識問題)) 30 問出題 / 30 問解答, 50 分

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジ系 17 問 (57%), マネジメント系 5 問 (17%), ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが、高度試験の約 4～5 割の人が午前Ⅰ試験から受験しています。今回の午前Ⅰ試験で 60 点以上取れた人は 71.5% もいましたが、これまで 60 点以上の得点で午前Ⅱ試験の採点に進む人は 5～6 割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人

がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには 4 割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前 I 試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

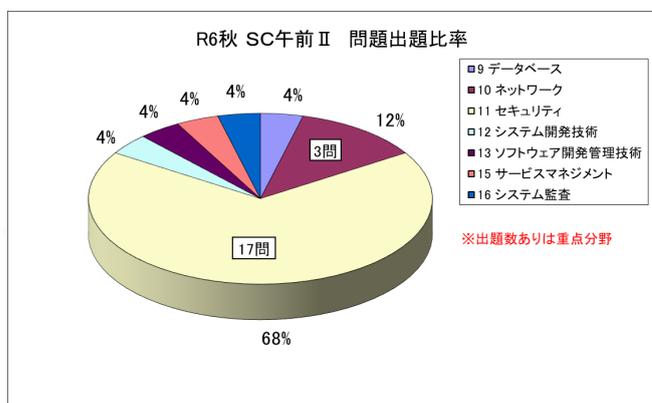
- ・今回の午前 I 試験は、6 割以上が過去問題でしたが、オーソドックスな問題が多く、前回より解きやすかったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 3 問で前回の 4 問と大きく変わっていません。



### (午前 II 試験 (専門知識問題)) 25 問出題 / 25 問解答, 40 分

午前 II 試験は基本的な問題が多く、セキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ 17 問と 3 問の合計 20 問で前回と同じです。新傾向問題は 7 問 (前回も 7 問)、過去問題は従来と同じで約 7 割ありました。全体として難しい問題は少なかったといえます。

過去の情報処理安全確保支援士試験問題の出題は 14 問ありました (前回も 14 問)。複数年度の過去問題から分散して出題され、R4 年春と秋の過去問がそれぞれ 3 問ずつで、他年度より多く出題されていました。



### (午後試験 (記述式)) 4 問出題 / 2 問解答, 150 分

前々回から午後 I と午後 II の二つの試験が統合された午後試験は、150 分の解答時間で、4 問出題のうち 2 問を解答する方式に変わりました。試験時間が短くなったので受験者の負荷は軽減されましたが、今回の試験では、4 問中の 2 問が Web 関連のセキュリティ問題 (前回 3 問) で、他内容の問題が 2 問あったことから、問題選択の自由度は前回よりも増えたといえます。また、前々回試験から、字数制限のない記述式の設問が出ましたが、今回の試験ではほとんどの設問が字数制限のないものでした。この形式の設問は、自分の考え方を論理的に整理して、解答を分かりやすく記述する必要があるの少し難しくなるといえます。今回合格率が低かった原因の一つがこの字数制限のない記述式の設問だったともいえます。

なお、問題文の量は 1 問 7~9 ページで、前回とほぼ同じです。

新しい形式になった午後試験で合格基準点をクリアするためには、情報セキュリティ全般に関する知識を十分に身に付けた上で、問題文に記述された内容をよく読み、本文や図、表に記述された条件などを丁寧に整理して考えていきます。その上で、設問で問われていることを的確に把握して解答を作成する必要があります。試験の形式は変わりましたが、令和 5 年度春期試験まで出題されていた旧午後 I ・午後 II 試験と問われる内容は同じなので、演習問題として活用し、解答作成のコツをつかむようにしてください。

